

サニックス団体選手権2025

小学生

団体徒手・ロープ

ルール

総 則 全九州小学生団体徒手・ロープ オリジナルルール

※

- 1, 本競技は、小学校 1 年から 6 年までの女兒 1 チーム 5 名編成で、チャイルドの部で競うものとする。
- 2, 競技時間は、2 分 1 5 秒から 2 分 3 0 秒とし、オリジナルな部分を除き音楽や時間に関する事項は（財）日本体操協会 2025年～2028年度版採点規則を採用する。
- 3, 審判は選出された、D審判 4 人・A審判 4 人・E審判 4 人 計 1 2 人が従事する。
- 4, 計時審・線審は、減点を記録し レスポンシブルジャッジに提出する。
- 5, 競技中、D審判・A審判・E審判で調整のため話し合いが生じた場合、審判長の指示をあおぐ事。
- 6, 申告書は、「チャイルド新体操団体徒手・ロープ申告書及び採点票」に演技順を記載し、指定日までに提出する。
- 7, 申告書ミスは、減点しない。
- 8, 開催に伴い、可能な限り事前研修会を開催する。
- 9, 演技中の手具の破損は、予備手具を準備しないためその部分は 0 になる。
- 10, 各選択難度は、単発でおこない、コンバイン身体難度は認められない。
- 11, 各審判は、次のように採点をおこない D+A+E の合計とする。

D審判 (難度)	上限なし	必須難度 0.5×6 全身波動 0.5×2
		連続回転大小各 0.5×2 大連係1.0 小連係 0.2×5
		選択難度 ジャンプ 1・バランス 2・ローテーション 1 4つ 日本体操協会ルールの価値
A審判 (芸術)	0～10.00	手具ありステップ 1.0×1 手具無しステップ 1.0×2
E審判 (技術)	0～10.00	技術的欠点

12, タイブレイク規則 同点であった場合の優先順位の決定方法

- 1、Eスコア合計点が最も高い
- 2、ET（技術得点）減点の最も低い
- 3、Dスコア合計点が最も高い

確認事項 総則

※

(1) 徒手の途中に20秒～30秒(手具を持ってから置くまで)の「ロープ運動」を加える。

20秒満たない時は、1秒につき0.05の減点とする。(計時審より)

①リズムカルなステップ「S」と「大連係」は手具操作で構成する。

②両者は続けて構成し(どちらが先でも良い)「作品の最初と最後」では構成しない。

③ステップは、8秒以上続ける。

④大連係は動きと手具との繋ぎをよく考え構成する。高い投げは実施不可とする。

⑤2者の余分な「無駄足」・「動き」は減点対象とする。

⑥予備手具は置くことは出来ない。手具の破損がないか留意しておくこと。

⑦5本のリボンは、フロア外ならどこに置いてよい。(自前の手具です)

⑧手具を持っている間に手具技術グループから最低2個全員で実施すること。

(2) ①「小連係」と称した徒手による5個の連係と、ロープによる「大連係」も「回転」を伴っても良いし、伴わなくても良い。回転の重複に注意!

回転難度は禁止です。人数・回数は自由ですが、多様性に注意!

②他の選手との交代・・・つまり選手の演技中離脱・・・0.3の減点

正当に新しい選手との交代・・・0.5の減点

レスポンスブルジャッチより

(3) ①必須難度は、オリジナルルール(P5参照)を適用(許容なし)

②選択難度は、単独で行うこと(コンバイン難度禁止)

③選択難度は、日本体操協会ルール

(4) 伴奏音楽は、CD・USBでよいが、各チーム、所属名・演技種目を記入しておく。

(5) 回転要素は、完全に360度を実施する。

下記の①・②で使用したものは「単発」でも使用不可。

①大アクロ(大きな2回転の転回)

同じ前方・後方・側方・イリュージョンなどの立位によるプレアクロバット回転を2回続けたもの1回

②小アクロ(①以外の3種類の回転を続けたものを1回)(3つ全てが小さくなくても良い)

※3つ全てが小さくなくてもよい但し立位は、1つまで使用可

シェネ・前転・後転・お尻まわり・ポワゾン・イリュージョン等を混ぜて3種の3回転

(日本体操協会2025～2028の回転グループ分けに関わらず形が違う回転とする。)

(6) 8秒以上のダンスステップコンビネーションは、手具あり1回・手具無し2回実施

(7) 全身波動(W) 2回実施

(8) バランスは、明確な静止、支持していない腕の動きは静止中に1動作とする。

注意と趣旨

※ ここには、将来子供たちの「身体の回転と手具の大きな投げ」を必要とする為の土台となる事をかんがみ、動きの方向性を正しく練習させることでダイナミック要素の技術をここでマスターさせ、押さえていく狙いがある。

その回転を実施するときの注意点！

○回転の動きが途切れる事のないように、スムーズな２回転・３回転の連続とする。

方法は、カノンでも一斉でもよい。

P４の難度マークは、

例えば

一つ目は、立位前方２回連続 従来通り

二つ目は、座位での３連続なら

前転・お尻・後転で 従来通り

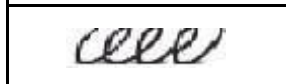
シェネ・前転・お尻



大アクロとして記入。



と記入。



と記入。

申請用紙の記入例

技 術 的 価 値					審 判
難度の技術		必須難度	選択難度	価値	
1			(例)	0.3	日本体操協会ルール
2	大アクロ			0.5	立位同じ２回転
3	小アクロ			0.5	座位３種・３回転OK 立位・座位で３種 ３回転 OK

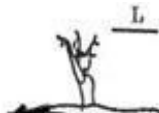
難度（D）

※難度の数

難度の技術	必須難度	得点	選択難度		難度合計
Λ	2	0,5	1	日本体操協会ルール	3
T	2	0,5	2		4
○	2	0,5	1		3
大アクロ 	1	0.5	2 回連続回転 1 個 プレアクロのみ 床に身体が接触しない		1
小アクロ 	1	0.5	3 連続回転 1 個 座位・立位をmixして構成可		1
ウエーブ W	2	0.5	全身の波動 電流のような身体部位の連動		2
手具による大連係 	1	1.0	5 人による 8 秒くらいの連係 1 回 回転は単独で自由 高い投げは実施不可とする		1
徒手による小連係 	5	0.2	共同作業 回転は単独 1 つは、サブグループでおこなって よい但し主要動作が同じであること		5
配点	16個		4 個		20個

1. 必須難度のシンボルマークと選択難度について

※（１）Λの必須の２種と選択の１種の難度（開脚で前の脚は、右 or 左）

必須難度		選択難度
1	2	3
		選択難度

※斜線は、右脚前方で **R** と記入

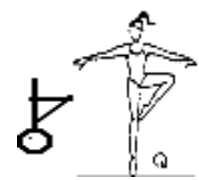
（２）**T** の必須の２種と選択の２種の難度（軸足は、右 or 左）

必須難度		選択難度	
1	2	3	4
R 	L 	選択難度	選択難度

- ・選択難度は、上げる足が
右３人・左２人でも可
- ・支持していない腕の動きは、
静止中に１動作
- ・踵は必ず上げて止まる

- ・バランス選択難度の３と４は違う種類の難度を入れる。つまり右・左ではない
- ・両手が支持ありの「バランス」は不可。

（３）○の必須の２種と選択の１種の難度（軸足は、右 or 左）

必須難度		選択難度
1	2	3
R 	L 	選択難度

- ・必須難度は 360° を超えること。
- ・アウトパッセ、膝より上にあげる。

ジャンプは、開脚ジャンプで同じです

バランスは、横バランスで変更になりました。

ピポットは、パッセピポットに変更になりました。

団体 D の減点表

※

配点

※

必須難度			配点	0,1	0,2	0,3	0,4	0,5
必須 難度	ジャンプ	ジャンプの高さ空中での形 大きさに欠ける	1 人 が 不 正 確	2 人 が 不 正 確	3 人 が 不 正 確	4 人 が 不 正 確	5 人 が 不 正 確	
	バランス	バランスの軸脚の保持の不足 バランスの 1 動作の欠如 不完全な動き 移動せず余分な動き 移動して余分な動き 両・片手着き完全にバランスを失う						
	ローテーション	ピポットの形の大きさが一定でない 膝から続く上肢の蛇・波動の柔らかさがない 脚が下がる・形の大きさが一定でない 余分に動く・大きなホップ						
	アクロ 回転	回転の動きが途切れる事のないように スムーズな 2 回転・ 3 回転連続とする						
	W(ウェーブ)	全身の波動						
大連係			0,1～1,0					
小連係			0,2					
難度			1,0					
手具技術			1つにつき 0.3					
選択難度			ノーカウント					

※ 芸術（A）

芸術（A） 最高 10,00 満点

- 美的完成度
- 構成と芸術的パフォーマンスを評価する
- 音楽の選択と決定がすべて
 - ・音楽の特徴は、選手の年齢、技術のレベル・芸術の質を尊重するだけでなく倫理的に選択すべきであること。
 - ・音楽は選手が、最高のパフォーマンスを発揮できるものとすべきである。
- 明確で特徴のあるダンスステップコンビネーションがあること。
 - ・最低3回の（ 手具あり1回・手具無し2回 ）
- 手具の出し入れが、スムーズにおこなわれていること。

実施（E）

実施（E） 最高 10,00 満点

- 要素が美的に、そして技術的完成を伴う実施を要求する。
 - 美しく ミスなく
 - 正しく 明確に
- 正確な実施からの全ての誤差は、技術的欠点とみなし、審判員はそれに応じて評価すること
 - 小さい 中くらい または 大きな減点
- 選択難度は、全員ができる事、許容は認める。

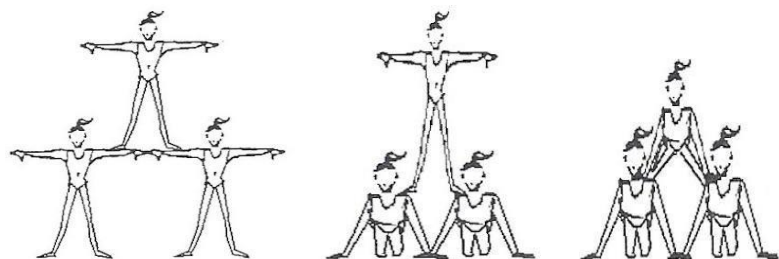
※芸術 (A)

芸術的欠点	0.1	0.3	0.5
動きの特徴		音楽と動きがいくつかの部分であっていない	音楽と動きの調和がとれていない
つなぎ	つなぎに中断がある そのつど 0.1 (最高 1.0)		
リズム	リズム・動きのハーモニーの欠如・そのつど 0.1 (最高 2.0)		演技終了時に音楽と動きの不一致 (人数に関わらず 1 回)
身体表現	選手間の表現が、いくつかの部分で欠如	演技の大部分において身体表現欠如	身体表現が見えない
共同作業	直・曲・集・離・散の 不正確 そのつど 0.1 (最高 1.0)		連係の禁止要素 4 秒を超えて持ち上げた 造形と/または許可 されない造形
フォーメーション		多様性が不十分	
ステップ	リズム・テンポと アクセントがない (0.1~0.5)		リズム特徴を伴った 8 秒以上のダンスコンビネーションが欠ける (1 つにつき 1.0)
統一性		技術の中断により構成の統一性/調和/連続性が壊れる	
音楽規範		規則に従わない/4 秒を超える音楽の イントロダクション	

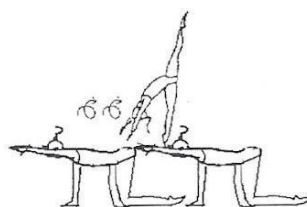
※実施(E)

技術的欠点	0.1	0.3	0.5
総則	不完全な動きまたはジャンプ バランス・ローテーション において形の大きさに欠ける		選手間・手具間での衝突
基礎技術	・動作中の身体の一部の 不正確な保持(最高 1.0)		
	・バランスを失う 不適切な足の動き	・バランスを失う 移動し て余分な動きを入れる	・完全にバランスを失い 転ぶ
ジャンプ リープ	・重い着地	・不正確な着地：着地の 最後に後ろに傾く	
	・小さな誤差を伴う不正確 な形	・中くらいの誤差を伴う 不正確な形	・大きな誤差を伴う 不正確な形
バランス	・小さな誤差を伴う不正確 な形	・中くらいの誤差を伴う 不正確な形	・大きな誤差を伴う 不正確な形
		・形が固定されず 保持されていない	
ローテーション	・小さな誤差を伴う不正確 な形	・中くらいの誤差を伴う 不正確な形	・大きな誤差を伴う 不正確な形
	・ルルベでの回転実施に 回転の一部で踵をつく	・身体の軸が垂直でなく 終了時に一歩動く	
	・ホップ(複数)		
アクロバット 要素	・重い着地	・許可されていない技術	
W (ウェーブ)	・小さな誤差を伴う不正確 な形	・中くらいの誤差を伴う 不正確な形	・大きな誤差を伴う 不正確な形
同時性	・動きの間の同時性の欠如		
フォーメーション	・フォーメーションの 不正確なライン(複数)		
基礎技術 ロープ	・身体の接触による軌道の 変更	・手具の静止(各選手 0.3)	・手具が落下し大きな 移動の後に取り戻す (各選手 0.5)
		・落下して移動せずに 取り戻す(各選手0.3)	
	・不正確な操作 大きさ、形、操作面、 またはロープの両端が保持 されていない	・中断なしで不注意により 身体または身体の一部 に巻きつく	・中断ありで不注意により 身体または身体の一部 に巻きつく
	・不注意により身体や床に 触れる ・中断なしで結び目ができる	・ロープの片端を失う ・ジャンプまたはホップ中 に足に引っ掛かる	・中断ありで結び目が できる

連係禁止技



ピラミッドを作りしばらくの間とどまる ダメ

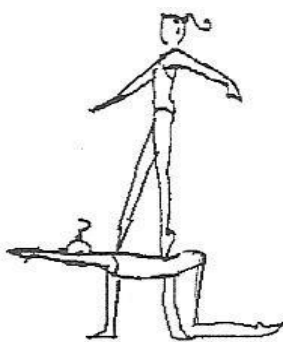


床接触がないから ダメ

2 歩を超えて選手を床上にて

運ぶ又は引きずる事も禁止

許される連係技



- ・ 1 歩乗ってすぐ降りる OK
- ・ 乗かって「トントン」と歩くのは NO
2 歩以上は不可
- ・ 人の上を超す 人の下を通る
人の力で回る 重なり合う 寄りかかる
- ・ インパルス（持ち上げ）
人の上を回転する 寄りかかる（瞬時）

全九州小学生徒手団体・ロープ 申告用紙

NO	チーム名	開催日	年	月	日
----	------	-----	---	---	---

技術的価値					審判	技術的価値					審判
難度の技術		必須	選択	価値		難度の技術		必須	選択	価値	
		難度	難度					難度	難度		
1						11					
2						12					
3						13					
4						14					
5						15					
6						16					
7						17					
8						18					
9						19					
10						20					

コ一チ署名

NO 審判署名

手具の基礎グループが入っていない

1 つにつき 0.3 減点

申請得点

減点

審判得点